

本気で喜んだことがありますか？

経済学部経済学科 原田 晶
(大阪府立 枚方なぎさ高等学校)

就職活動の末、第一希望の企業から内定をもらったとき、「就職が決まるのって、こんなにうれしいねんな」と、上級キャリアコースで共に励んできた Y さんと話したことを今でも鮮明に覚えています。そして、そのときのうれしさは、これまでの人生で経験したことのないほどのものであったといってもいい過ぎではありません。

みなさんも高校や大学を選ぶ際に、第一志望というものを設定したと思いますが、そこにはどのような理由があったのでしょうか。「なんとなく」、「親や先生が勧めるから」という主体的でない理由や、「他に行けるところがないから」、「家から近かったので」という消極的理由があったのだとすれば少し寂しい気がしますし、そもそもそのような理由で設定した第一志望に合格できたとしても、あまりうれしくないですね。

ですので、そんな理由で自分のゴールを設定するのはもうやめませんか。そうではなく、自分自身を限界まで追い込んだ上で困難なゴールを設定し、最後にはそれをクリアしてみませんか。そうしてこそ、冒頭で記したような、本当の喜びを味わうことができると思うのです。実は、私も上級キャリアコースに入る前までは、それができていませんでした。

上級キャリアコースに入ると、嫌でも限界まで追い込まれます。それでもサバイバルできた者には、「ERE で A 以上」とか「TOEIC で 600 以上」という厳しいノルマが設定されるようになります。ですが、その頃になるとこれまでコースで生き抜いてきたという自信からか、数々の難題に立ち向かうだけの能力・気力がみなぎるようになっているのです。首尾よくこれらノルマを乗り切った者は、その実績を引っ提げて就活に臨みます。最終的に、多くの者が大手優良企業などから内定を獲得してくることは、実績が示すとおりです。

なお、上級キャリアコースでは、理由に関わらず勉強が最優先になります。これに関連してか、メンバーのほぼすべては、放課後や夏休みなどに実施される課外講義にも参加しています。また、上で触れたように結果が求められます。単に、「頑張っています」では許されませんし、先生も仲間も認めてくれないでしょう。本当に頑張っているなら、結果が出るはずだからです。さらには、仲間と一丸となって同じ目標に向かって共に邁進できるかという、集団行動への適正も極めて重視されます(この意味では、他の人も書いているように、高校までは運動部に所属していた人に向いていると思います)。

さて、あなたは どうしますか。上級キャリアコースは、本当に厳しいものであることがおわかりいただけたと思いますが、それでも、本気で喜ぶという経験をしてみたい人は、覚悟の上でご参加ください。人生を賭けるつもりの人なら、大丈夫でしょう。